

令和二年度入学式式辞

ここ桜が岡に美しい桜が咲き誇り、万物に新しい生命の躍動を感じる春爛漫の今日のよき日に、御来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、令和2年度瓊浦高等学校第74回入学式を挙げてまいりますことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びであります。

緊張の中にも希望に胸膨らませた274名の皆さんに、ただいま入学を許可いたしました。入学おめでとう。教職員一同心から歓迎します。「花紅にして 美なりといえども 花ひとり開くにあらず 春風来たりて開くなり」とは道元の言葉です。春に咲く美しい花は、自分の力だけで咲くのではなく、春風などの自然の恵みに支えられて咲くということです。皆さんの入学は一人一人の努力の成果ですが、支え、励ましていただいた方々のおかげでもあります。そのことに感謝の気持ちを忘れないでください。

保護者の皆様には、本日のお子さまの清々しく、そして若さに輝く姿をご覧になり、大きな感激をかみしめておられることと拝察いたします。本当におめでとうございます。

また、ご来賓のPTA会長様には、ご多用の中にご臨席を賜り、新入生にお祝いと励ましをいただき、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて本校は今から95年前、中村安太郎先生によって瓊浦女学校として桜馬場の地に設立されました。その後、昭和24年に男女共学の瓊浦高等学校となり、学科改編、校歌制定、学校施設の整備など幾多の変遷を経て現在に至っています。この間、多くの優秀な人材を社会に送り出し、多数の先輩方が第一線で活躍しておられます。

現在本校は三つの学科それぞれの特色ある教育活動、そして充実した学校行事に加え、部活動においては体育部、文化部とも目覚ましい活躍を続けています。特に体育部の躍進により瓊浦の名は県内にとどまらず全国に轟いています。そして現在「生徒が輝く瓊浦」「日本一が狙える学校」「日本一楽しい学校」として、2025年の100周年に向け、「新たなる挑戦」をスローガンに掲げ、進化・発展を続けています。そういう恵まれた環境で高校生活を始める皆さんに、是非心がけて欲しいことを三つお話しします。

その一つ目は、校訓である「誠実・和・勤勉」についてです。

まず「誠実」とは、自分の行動に責任を持ち、失敗しても言い訳せず、またしてはいけないことは決してしないということ、そして人との約束を守るとともに相手の立場に立って考えるということです。誠実であれば、学校はもちろん、将来の職場においても、また私生活においても何事にも真剣な気持ちで取り組むことができ、知恵、技術、人格も自然に磨かれて周りの信頼を得ることができます。皆さんには、自分の行為にしっかりと責任のとれる誠実な人、周りにも誠実な気持ちで接することのできる人であってほしいと思います。

次に「和」についてです。「和の心」は私たち日本人が先人や先輩方から受け継ぎ、大切にしてきたものです。聖徳太子の十七条の憲法の中に「和を以て貴しと為す」という言葉がありますが、これは「互いに『和』を大切に、人と争わないようにしなさい。」という意味です。太子は人と人が利害関係のもとに争い、混迷を極めた時代を収めるために、人としての心構えの根底に「和の精神」を説いたのです。相手の立場や心情を察して、お互いを大切に思う「和の心」を持ってこそ、いろいろな人と協力しあいながら、うまくやっていけるのです。高校三年間はもちろん、

将来にわたり「和」の精神を大切にしてくれることを願っています。

最後に「勤勉」についてです。「勤勉は成功の母」という言葉がありますが、これは「日々の仕事や勉強に一生懸命に努力していけば、それがやがて自分の成功に結びついていく、やるべきことを、こつこつとしっかりやってゆくことが、成功への道につながる」ということです。日本人は勤勉な国民と言われ、働き者であることを誇りに思い、世界からも高い評価を受けてきました。今日の日本の繁栄もこの「勤勉」の上に成り立っています。勤勉の「勤」という文字は訓読みで「いそしむ」と読み、校歌にも「絶えず勤しむ」という歌詞がありますが、一生懸命に励み続けるということです。皆さんも何事にも心を込めて精一杯の努力ができる勤勉な人になってほしいと思います。

二つ目は、「明確な目標を掲げ、自らの可能性に挑戦する」ということです。様々な可能性を秘めた皆さんには、まずは学習、部活動、進路などそれぞれに明確な目標を持ってほしいと思います。そしてその目標を達成するためには自分は毎日をどう過ごせばよいのか、どんな努力を積み重ねばよいのかをはっきりさせ、日々の努力を大切に、そして仲間と切磋琢磨しながら前進してください。高校は将来を方向づける大切な三年間です。自分の行動に自覚と責任を持つとともに、やるべきことをやり遂げる意思の強さを持ってほしいと思います。そして苦労や困難を乗り越え、自らの可能性に若者らしく精一杯チャレンジしてくれることを願っています。

三つ目は、「自分を磨く」ということについてです。校歌の歌詞に「金剛石」ということばがありますが、これはダイヤモンドのことで、昭憲皇太后の御歌「金剛石も磨かずば珠の光は添はざらむ」に由来します。皆さんは磨けば光るダイヤモンドの原石です。しかしこの御歌にあるように「磨かなければ光ることはない」、つまり優れた才能があっても努力して自分を磨かなければその能力を生かすことはできません。逆に言えば、原石である皆さんは高校三年間、自分を磨き続けることで、様々な成果をあげるとともに、卒業するときには、輝きに満ちたダイヤモンドに成長できます。自分を磨くとは、学習、部活動、学校行事など、やるべきことに手を抜かずに徹底して取り組む中で、学力や技術の向上を図るとともに、人間性を高める、魅力ある人になるよう日々精進するということです。どうか一日一日を大切にしながら、受け身ではなく自分自身で自分を磨く、立派な自分を作り上げるという気持ちで日々過ごしてくれることを願っています。

保護者の皆様には、改めてお祝いを申し上げます。私たち教職員一同、お預かりしましたお子様一人一人を大切にしながらその能力を伸ばし、学力や体力の向上、人格の形成、そして希望の進路実現のため、全力を傾注して教育にあたる覚悟でございます。本校の教育活動に深い御理解と暖かい御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、新入生の皆さんにとって、この学び舎での三年間が、若者らしい夢と希望に満ちた実り多い高校生活となることを心から願い、式辞といたします。

令和2年4月8日

瓊浦高等学校長 渡川 正人